



**2022年3月期第1四半期
決算説明資料**

2021年7月30日
SGホールディングス株式会社

1.	2022年3月期 第1四半期 決算概要	1 ~ 9
2.	2022年3月期 業績予想	10 ~ 14
3.	参考資料	15 ~ 18

2022年3月期第1四半期のハイライト

宅配便の取扱個数は、BtoBへの積極的な営業活動により増加。また、BtoCも底堅く推移した。TMS⁽¹⁾は、GOAL[®]の取組みにより取扱いが増加。ロジスティクス事業は、海外フレイトフォワーディングにおける新規案件受託(海上輸送)や既存顧客の取扱量増加により好調を維持。これらを主要因として、業績は堅調に推移した。

- (業界関連)
 - ・ 新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)拡大の中で新たな生活様式が浸透しており、幅広い年齢層でeコマースなど通信販売による購入が引き続き堅調に推移
 - ・ 感染症拡大により、非接触配達や非対面での配達等、荷物の受け渡し方法が多様化
 - ・ 世界的なコンテナ不足により航空・海上貨物の需給がひっ迫しており、運賃が高騰
- (当社業績の概況)
 - ・ 積極的な営業活動によりBtoBの取扱個数は増加。BtoCは底堅く推移
 - ・ 平均単価は、相対的にサイズの大きいBtoBが増加したことにより上昇
 - ・ TMSはGOAL[®]の取組みにより取扱いが増加。また、自治体からのご要望にお応えし、ワクチン輸送案件にも対応
 - ・ ロジスティクス事業は海上輸送で新規案件を受託。また、コンテナ需給がひっ迫する中、継続的に海上及び航空スペースを確保できたことにより、既存顧客の取扱量増加に対応

注記 (1) TMS: Transportation Management System、当社グループの物流ネットワークを活用した宅配便以外の付加価値輸送サービス(2)「GOAL[®]」はSGホールディングス株の登録商標

連結業績サマリー

(億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
営業収益	3,176	3,475	109.4%
営業利益 (営業利益率)	277 (8.7%)	289 (8.3%)	104.4%
経常利益	287	296	102.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	172	206	119.9%
EBITDA	340	361	106.3%

注記 (1)億円未満切り捨て(2)前第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2021年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております

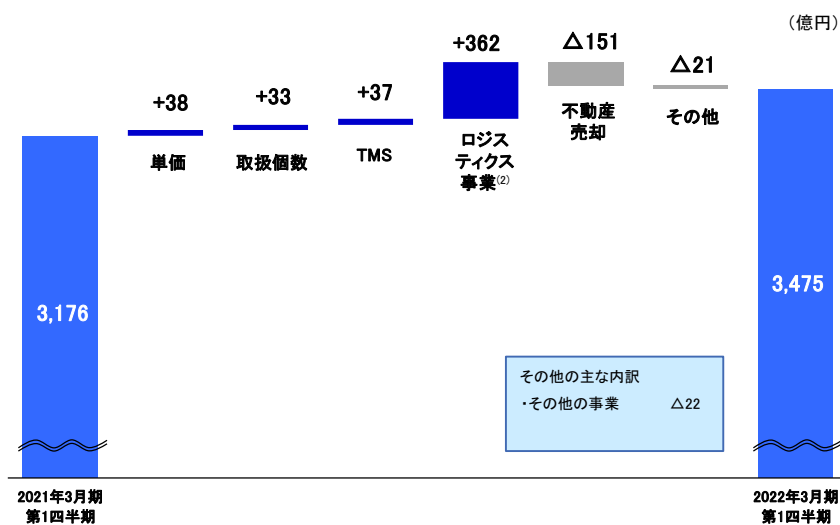
Copyright ©2021 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

3

■ 当社グループの業績（前年同期との比較）

- 営業収益： + 299億円
- 営業利益： + 12億円
- 経常利益： + 8億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益： + 34億円
- EBITDA： + 21億円

営業収益の増減分析



注記 (1) 億円未満切り捨て (2) TMSを除く

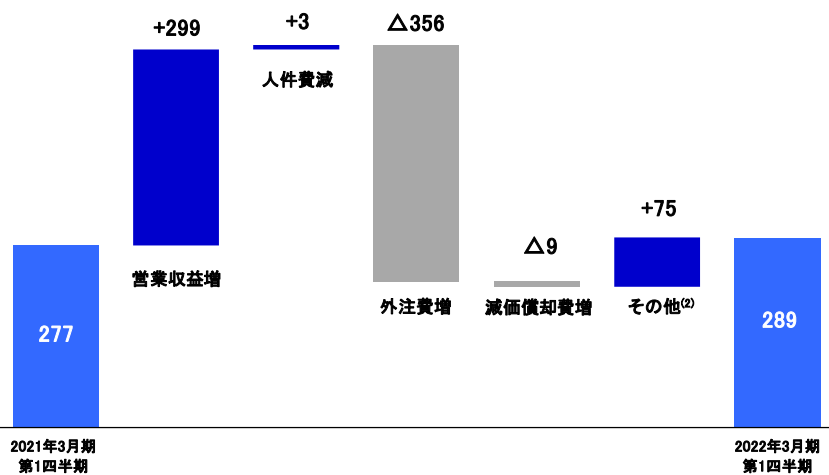
■ 実績（前年同期との比較）

- 平均単価 : 645円 (+ 11円)
- 取扱個数 : 347百万個 (+ 5百万個)
- TMS : 249億円 (+ 37億円)

(参考) 稼働日前年増減 : 平日±0、土曜日±0、日曜祝日±0

営業利益の増減分析

(億円)



注記 (1) 億円未満切り捨て (2) 「その他」は燃料費含む

Copyright © 2021 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

5

■ 主な費用の内訳

- 人件費 : 1,093億円 (前年同期比 99.7%)
 - 前期は一過性費用としてコロナ見舞金を計上
- 外注費 : 1,656億円 (前年同期比 127.4%)
 - ロジスティクス事業増収に伴う外注費の増加
- 減価償却費 : 72億円 (前年同期比 115.2%)
 - Xフロンティア減価償却費の増加
- その他 (燃料費含む) : 363億円 (前年同期比 82.7%)
 - 不動産販売原価の減少

セグメント別業績

(億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
営業収益 合計	3,176	3,475	109.4%
デリバリー事業	2,432	2,543	104.6%
ロジスティクス事業	407	770	189.1%
不動産事業	172	19	11.5%
その他の事業	163	140	86.3%
営業利益 合計	277	289	104.4%
デリバリー事業	156	202	129.4%
ロジスティクス事業	20	57	280.1%
不動産事業	84	14	16.7%
その他の事業	9	9	101.5%
調整額	6	6	88.8%

注記 (1)億円未満切り捨て(2)前第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2021年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております

《増収増益》

デリバリー事業、ロジスティクス事業

《減収増益》

その他の事業

《減収減益》

不動産事業

セグメント別業績概要

デリバリー事業

- 取扱個数は積極的な営業活動によりBtoBが増加、またBtoCも底堅く推移
- 平均単価は、相対的にサイズが大きいBtoBが増加したことにより上昇
- GOAL®の積極的な営業活動により、TMSの受注が増加。また、自治体からのご要望にお応えし、ワクチン輸送にも対応
- Xフロンティアは順調に稼働を継続しており、高品質で安定的なサービスを提供

ロジスティクス事業

- 海上輸送では新規案件を受託
- コンテナ需給がひっ迫する中、継続的に海上及び航空スペースを確保できたことにより、既存顧客の取扱量増加に対応

不動産事業

- 前期第1四半期に実施した保有不動産の売却を当期は下期に予定

その他の事業

- BPO案件の新規受託が増加
- 自動車販売が減少

連結キャッシュ・フロー計算書

主要キャッシュ・フロー項目

(億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	505	44
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 218	55
フリーキャッシュ・フロー ⁽²⁾	286	99
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 126	△ 199
現金及び現金同等物の増減額	160	△ 98
現金及び現金同等物の四半期末残高	847	593

注記 (1) 億円未満切り捨て (2) フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

Copyright © 2021 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

8

■ 連結キャッシュ・フロー

・ 営業活動によるキャッシュ・フロー 44億円

主な内容：	税金等調整前四半期純利益	313億円
	減価償却費	72億円
	賞与引当金の増減額 (△は減少)	138億円
	投資有価証券売却損益 (△は益)	△17億円
	売上債権の増減額 (△は増加)	△47億円
	仕入債務の増減額 (△は減少)	△80億円
	法人税等の支払額	△218億円
	未払費用の増減額 (△は減少)	△56億円
	未払消費税等の増減額 (△は減少)	△31億円

・ 投資活動によるキャッシュ・フロー 55億円

主な内容：	有形固定資産の取得による支出	△74億円
	無形固定資産の取得による支出	△12億円
	投資有価証券の売却による収入	142億円

・ 財務活動によるキャッシュ・フロー △199億円

主な内容：	短期借入金の純増減額 (△は減少)	△25億円
	長期借入金の返済による支出	△48億円
	配当金の支払額	△110億円

連結貸借対照表

(億円)	2021年3月期末	2022年3月期 第1四半期	(億円)	2021年3月期末	2022年3月期 第1四半期
流動資産	3,036	2,959	負債	3,854	3,598
現金及び預金	691	593	買掛債務	797	707
営業債権及び その他の債権	1,878	1,898	有利子負債	1,237	1,167
棚卸資産	307	301	その他	1,818	1,724
その他流動資産	158	166	純資産	4,048	4,157
固定資産	4,866	4,795	親会社株主帰属分	3,983	4,087
有形固定資産	3,528	3,549	非支配株主持分	65	69
のれん	40	39			
その他固定資産	1,297	1,206			
資産合計	7,902	7,755	負債純資産合計	7,902	7,755

注記 億円未満切り捨て

■ 自己資本比率

- 自己資本比率 : 52.7% (前期末比+2.3ポイント)

-
1. 2022年3月期 第1四半期 決算概要 1 ~ 9
 2. 2022年3月期 業績予想 10 ~ 14
 3. 参考資料 15 ~ 18

2022年3月期の取組み

2019年度～2021年度 中期経営計画 Second Stage 2021

<経営戦略>

- ① 物流ソリューションの進化
- ② 経営資源の価値最大化
- ③ デジタル化の推進と最新技術の導入
- ④ グローバル事業の拡大
- ⑤ 組織・人材の高度化
- ⑥ ガバナンス強化

2022年3月期の取組み

デリバリー事業

- GOAL®を中心としたTMS等のソリューション強化
- 適正運賃取受の取組みの継続
- Xフロンティアによるキャパシティ増加と輸送ネットワーク強化
- デジタル化による生産性向上と働き方改革の推進

ロジスティクス事業

- 海外3PLを含むサプライチェーン全体の機能強化・拡大
- グローバルフレイトフォワーディングのネットワーク拡大
- ジャパンレーンを中心とした越境EC等サービスの拡大

不動産事業

- 物流機能を強化する施設開発の推進
- 保有不動産の継続的な売却

その他の事業

- 物流附帯業務としてサービス品質の維持・向上
- 物流と連携した新たな機能・サービスの開発

連結業績予想

		2021年3月期 実績	2022年3月期 前回業績予想 (2021年4月30日公表)	2022年3月期 業績予想	前期比	前回予想比
(億円)						
営業収益		13,120	13,250	13,450	102.5%	101.5%
営業利益 (営業利益率)		1,017 (7.8%)	1,070 (8.1%)	1,140 (8.5%)	112.1%	106.5%
経常利益		1,036	1,085	1,155	111.4%	106.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益		743	740	790	106.3%	106.8%
EBITDA		1,281	1,370	1,440	112.4%	105.1%
1株当たり 配当金 ⁽³⁾	第2四半期末	18円	18円	19円	+3円	+2円
	期末	17円	18円	19円		
	合計	35円	36円	38円		

注記 (1) 億円未満切り捨て (2) 2022年3月期業績予想の前提: デリバリー事業平均単価648円、取扱個数1,410百万個 (3) 当社は、2020年11月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。2021年3月期の1株当たり配当金は期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の金額を記載しています。

■ 通期業績予想（前回予想との比較）

第1四半期の業績と足元の状況を踏まえ、当初第1四半期予想を実績へと置き換え、新たな通期業績予想といたしました。

- 営業収益： + 200億円
- 営業利益： + 70億円
- 経常利益： + 70億円
- 親会社株主に帰属する当期純利益： + 50億円
- EBITDA： + 70億円

- 想定平均単価 648円 前回予想差 + 1円
- 想定取扱個数 1,410百万個 前回予想差 + 7百万個

【参考】営業費用の前期増減内訳（前回予想差）

- 人件費 Δ 138億円 (+ 20億円)
- 外注費 +381億円 (+110億円)
- 減価償却費 + 39億円 (± 0億円)
- その他（燃料費含む） Δ 76億円 (± 0億円)

上期業績予想

(億円)	2021年3月期 第2四半期累計 実績	2022年3月期 第2四半期累計 前回業績予想 (2021年4月30日公表)	2022年3月期 第2四半期累計 業績予想	前年同期比	前回予想比
営業収益	6,348	6,600	6,800	107.1%	103.0%
営業利益 (営業利益率)	524 (8.3%)	460 (7.0%)	530 (7.8%)	101.0%	115.2%
経常利益	527	465	535	101.4%	115.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	372	320	370	99.2%	115.6%

注記 億円未満切り捨て

Copyright ©2021 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

13

■ 上期業績予想（前回予想との比較）

第1四半期の業績と足元の状況を踏まえ、上期業績予想を上方修正

- 営業収益： + 200億円
- 営業利益： + 70億円
- 経常利益： + 70億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益： + 50億円

セグメント別業績予想

(億円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 前回業績予想 (2021年4月30日公表)	2022年3月期 業績予想	前期比	前回予想比
営業収益 合計	13,120	13,250	13,450	102.5%	101.5%
デリバリー事業	10,149	10,310	10,380	102.3%	100.7%
ロジスティクス事業	2,078	2,235	2,365	113.8%	105.8%
不動産事業	228	135	135	59.1%	100.0%
その他の事業	664	570	570	85.7%	100.0%
営業利益 合計	1,017	1,070	1,140	112.1%	106.5%
デリバリー事業	714	835	885	123.8%	106.0%
ロジスティクス事業	127	105	125	98.1%	119.0%
不動産事業	113	70	70	61.9%	100.0%
その他の事業	42	40	40	95.0%	100.0%
調整額	19	20	20	102.1%	100.0%

注記 億円未満切り捨て

Copyright © 2021 SG HOLDINGS CO., LTD. All Rights Reserved.

14

■ セグメント別業績予想（前回予想との比較）

・ 営業収益	+200億円
デリバリー事業	+ 70億円
ロジスティクス事業	+130億円
不動産事業	± 0億円
その他の事業	± 0億円
・ 営業利益	+ 70億円
デリバリー事業	+ 50億円
ロジスティクス事業	+ 20億円
不動産事業	± 0億円
その他の事業	± 0億円
調整額	± 0億円

-
1. 2022年3月期 第1四半期 決算概要 1 ~ 9
 2. 2022年3月期 業績予想 10 ~ 14
 - 3. 参考資料 15 ~ 18**

商品・サービスの状況

デリバリー事業 取扱個数・単価の状況

(百万個、円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
取扱個数合計	342	347	101.5%
飛脚宅配便 ⁽²⁾⁽⁴⁾	329	333	101.4%
その他 ⁽³⁾	12	13	105.9%
平均単価	634	645	101.8%

e-コレクト⁽⁴⁾ 個数・決済金額の状況

(百万個、億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
個数	22	19	87.4%
決済金額	2,467	2,274	92.2%

TMSの状況

(億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
売上高	212	249	117.6%

注記 (1) 徳円未満切り捨て (2) 飛脚宅配便は、佐川急便株式が国土交通省に届け出ている宅配便の個数 (3) その他は、飛脚ラージサイズ宅配便⁽⁴⁾ 及びその他の会社の取扱個数
(4) 「飛脚宅配便」、「飛脚ラージサイズ宅配便」、「e-コレクト」はSGホールディングス株式の登録商標

営業費用の内訳

連結決算 主要費用項目

(億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
営業費用 合計	2,899	3,186	109.9%
人件費	1,096	1,093	99.7%
外注費	1,300	1,656	127.4%
燃料費	20	26	129.2%
減価償却費	62	72	115.2%
その他経費	419	337	80.5%

デリバリー事業 主要費用項目

(億円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比
営業費用 合計	2,380	2,451	103.0%
人件費	964	939	97.4%
外注費	1,097	1,178	107.3%
燃料費	20	26	129.2%
減価償却費	44	51	116.5%
その他経費	253	256	101.1%

注記 (1)億円未満切り捨て (2)前第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2021年3月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております

従業員・車両・拠点の状況

(人、台、店)		2021年3月期末	2022年3月期 第1四半期末
連結従業員数	合計	97,774	98,211
(うちパートナー社員等 ⁽¹⁾)		(45,753)	(45,311)
デリバリー事業		79,902	79,669
		(36,839)	(35,852)
ロジスティクス事業		13,172	13,353
		(6,886)	(7,039)
不動産事業		63	63
		(-)	(-)
その他の事業		3,888	4,352
		(1,801)	(2,201)
全社(共通)		749	774
		(227)	(219)
佐川 急便	車両台数	26,673	26,628
	主な拠点数	864	870
	中継センター	23	23
	営業所	428	428
	小規模店舗 ⁽²⁾	413	419

注記 (1) 期中の平均人員数 (2) サービスセンター、デリバリーセンターの合計

ディスクレイマー

本資料は、SGホールディングス㈱(以下、「当社」とします)及びそのグループ会社(以下当社とあわせて、「当社グループ」とします)の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。また、本資料の全部または一部を当社の承諾なしに公表または第三者に伝達することはできません。

本資料に、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれることがありますが、これらに限られるものではありません。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提(仮定)の下になされています。これらの記述または前提(仮定)は、客観的には不正確であったり、または将来実現しないという可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクとしては、金利の変動、株価の低下、為替相場の変動、保有資産の価値変動、信用の低下、国内外の企業の生産活動または個人消費の低迷、原油価格の高騰、人件費の高騰、eコマース市場の低成長、㈱日立物流との資本業務提携のシナジーの未実現やディスシナジーの発現、システム・事務・人的・法令違反リスク、不正・不祥事の発生、風評・風説等によるイメージ・信用の低下、事業戦略・経営計画が奏功しないリスク、業務範囲の拡大等に伴う新たなリスク、経済・金融環境の変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、業務提携・外部委託等に伴うリスク、繰延税金資産の減少その他様々な要因が挙げられますが、これらに限られません。

なお、本資料における記述は本資料の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。これらの要因により、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。

また、本資料に記載されている当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておりません、また、これを保証するものではありません。